**機械器具　１６　体温計**

**管理　電子体温計（JMDN コード：14032010）**

テルモ社内管理コード

*ET44J405C*

# テルモ電子体温計Ｃ４０５

**【警告】**
・子供だけで使わせないこと。
［本品の先端部をかみ切って飲み込んだり、けがをする可能性がある。］

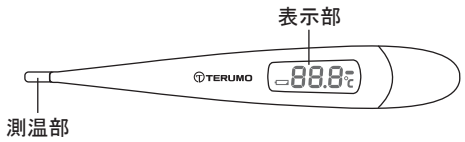
**【禁忌・禁止】**
・引火性のある環境では使用しないこと。
［引火又は爆発の誘因となる可能性がある。］

## 【形状・構造及び原理等】

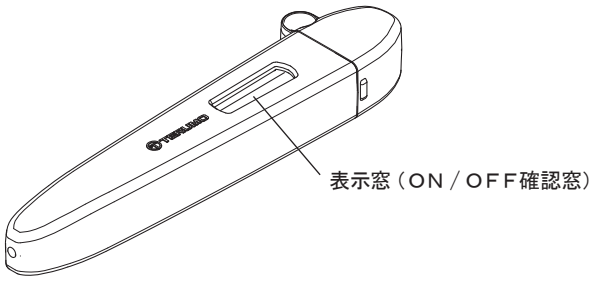
**＜構造図＞**

●本体

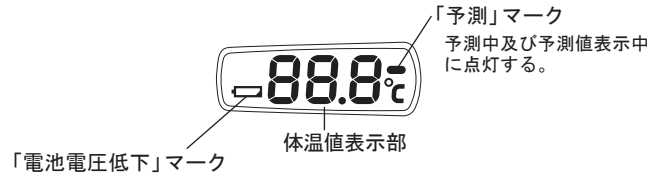
（正面）




●収納ケース




●表示部　※説明のため、全点灯で表示




外観寸法：長さ 129㎜ ×幅 17.6㎜ ×厚さ 12.6㎜
質　　量：約 13.0g（電池含む）
付 属 品：添付文書／ ＥＭＣ技術資料、取扱説明書／ 品質保証書、収納ケース

**＜原理＞**

本品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、検温開始から約 2 分までは予測値、それ以降は実測値の最高値をデジタルで表示する。検温中は、平均約 30 秒（およそ 25 ～ 40 秒）で予測が成立したことを知らせるブザーが鳴り、検温をそのまま続けると約 5 分後に実測検温終了のブザーが鳴る。

［機器の分類］
電撃に対する保護の形式による分類：内部電源機器
電撃に対する保護の程度による装着部の分類：ＢＦ形装着部
液体の浸入に対する保護の程度による分類：ＩＰＸ７

［電気的定格］
電　　源：アルカリマンガン電池（ＬＲ４１）２個（交換不可）
電　　圧：ＤＣ３.０Ｖ
消費電力：約０.３mW

本品は EMC 規格 IEC 60601-1-2:2004 に適合している。
CISPR グループ分類：グループ 1　クラス分類：クラス B

［付帯機能］

| | |
|---|---|
| 初期動作確認機能（告知機能） | ：電源が入った時に所定の表示を行い、検温可能を告知する。 |
| 予測成立ブザー機能（告知機能） | ：予測成立時にブザーが鳴動する。 |
| 定刻ブザー機能（告知機能） | ：検温開始から約 5 分後にブザーが鳴動する。 |
| エラー表示機能（告知機能） | ：検温不良時、ブザーが鳴動し、表示部に「E」を表示する。 |
| 使用温度範囲外表示機能（告知機能） | ：使用周囲温度が、使用条件の範囲外の場合、表示部に「Hi」又は「Lo」のマークを表示する。 |
| 体温値点滅表示機能（告知機能） | ：体温計の測温部が大きくずれた場合等で正常な予測検温が行われなかった際に、その旨を体温値の点滅で告知する。 |
| 動作不能告知表示機能（告知機能） | ：体温計が動作異常を検知した場合に、「EE」のマークを表示する。 |
| 電源入切機能（電源制御機能） | ：収納ケースへの出し入れで電源が入／切する。 |

**取扱説明書を必ずご参照ください。**

## 【使用目的、効能又は効果】

＜使用目的＞

測温部を部位に接触させて、口腔（舌下）、直腸の体温を測定し、最高温度を保持しデジタル表示すること。

## 【品目仕様等】

［特性・性能又は機能に関する規格］

・最高温度保持機能：実測表示に切替え後は、実測した最高の温度値を保持し、検温を終了しても電源がOFFされるまで表示を維持する
・デジタル表示：３桁
・最大許容誤差（温度指示精度）：±0.1℃以内（標準温度計に対して）
・電源電圧：「電池電圧低下」マークが点灯する直前の電圧における温度表示値が±0.2℃以内
・防　　浸：試験前後の温度表示値の差が±0.1℃以内
・測温範囲：32.0～42.0℃
・最小表示単位：0.1℃
・測温範囲外告知（オーバー表示機能）：測定温度が42.0℃を超えると表示部に「０」を表示し、測温範囲外を告知する

［その他の仕様］

種　　類：一般用　測温部一体形　防浸形
測温方式：予測式（予測検温・実測検温兼用）
検温部位：口腔（舌下）・直腸
検温時間：予測検温時間　平均約30秒（おおよそ25～40秒）
　　測定開始後、約2分後実測表示に切替
　　実測検温時間　約5分
使用条件：周囲温度　10～40℃　相対湿度　30～85%RH
　　（ただし、結露なきこと）

## 【操作方法又は使用方法等】

［測定方法（口中検温の場合）］

1. 体温計を収納ケースから取り出す。（電源が入る）
2. 舌下中央のすじの横に体温計の先端（測温部）をあてる。
3. 舌を下げ、口を軽く閉じる。
4. ブザーを聞いてから体温計を取り出す。
   ・予測検温
   最初のブザーで取り出す（平均約30秒（おおよそ25～40秒）で測れ、「予測」マークが点灯している）。
   ・実測検温
   2度目のブザーが鳴るまで待って取り出す（約5分で測れ、「予測」マークが消えている）。より厳密な体温を測定するには、実測検温を行う。
5. 体温計を収納ケースに収める。（電源が切れる）

［測定方法（直腸検温の場合）］

1. 体温計を収納ケースから取り出す。（電源が入る）
2. 成人の場合は側臥位、乳児の場合は仰臥位をとらせ、潤滑剤をつけた体温計を一定の深さ（成人：約６ｃｍ／乳児：約2.5～３ｃｍ）までゆっくりと挿入する。
3. ブザーを聞いてから体温計を取り出す。
   ・予測検温
   最初のブザーで取り出す（平均約30秒（おおよそ25～40秒）で測れ、「予測」マークが点灯している）。
   ・実測検温
   2度目のブザーが鳴るまで待って取り出す（約5分で測れ、「予測」マークが消えている）。より厳密な体温を測定するには、実測検温を行う。
4. 体温計を収納ケースに収める。（電源が切れる）

＜使用方法に関連する使用上の注意＞

［口中・直腸共通］

・体温は時間帯、気温、睡眠、感情等の要因で常に変動しているので、平熱をあらかじめ検温しておくこと。
・飲食後、運動後、入浴後、外出から帰宅後はすぐに検温せず、30分ほど待ってから測ること。［正確な検温ができないことがある。］
・検温開始前に体温計の先端（測温部）に触れないこと。［正確な検温ができないことがある。］
・検温中は体温計が動かないように、指で支えること。また、体を動かさないこと。［体温計の測温部が正しい位置からずれると、正確な検温ができないことがある。］
・くり返し検温するときは、少し時間をおくなど体温計の先端（測温部）を冷ましてから検温すること。［正確な検温ができない。］
・取り出してから表示値が変化したときは、変化後の（固定した）値を読み取ること。［予測演算が終了するまで若干の時間がかかるため。］
・数値を読み取る際、体温計の先端(測温部)に触れないこと。［表示が変化することがある。］
・表示が点滅するときは、最初から検温をやりなおすこと。

［口中］

・検温中は会話や口での呼吸等、口を開けないこと。［外気で口中内が冷え、正確な検温ができないことがある。］

［直腸］

・多量の便が直腸内に存在している状態では測定しないこと。［正確な検温ができないことがある。］

## 【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

・測定結果の診断、治療は医師の指導に従って行うこと。
・人の体温測定以外に使用しないこと。［けがの可能性がある。誤作動や故障の原因となる。］
・添付文書及び取扱説明書を確認の上、使用すること。
・口中・直腸以外で使用しないこと。［けがの可能性がある。正確な検温ができない。］
・使用の前に、外観に破損等がないことを確認し、異常が認められた場合は使用しないこと。［検温値の異常や、けがの可能性がある。］
・破損したものは使用しないこと。［検温値の異常や、けがの可能性がある。］
・強くかまない、踏まない、落とさない、強いショックを与えない、曲げない、引っ張らないこと。［破損や故障の原因となる。］
・強い静電気や電磁波、磁石等に近づけたり、近くで携帯電話を使用しないこと。［誤作動や故障の原因となる。］
・本品は、振動、塵埃、噴霧、腐食性ガス等の発生する場所で使用しないこと。［本品が有する機能や性能が得られず、また、故障の原因となる。］
・分解、修理、改造は行わないこと。［破損や故障の原因となる。］
・本品の表示部を強く押えたり、ボールペンやツメ等、硬いもの、先の尖ったものでつついたりしないこと。［表示部の破損や故障の原因となる可能性がある。］

## 【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

### ＜貯蔵・保管方法＞

・暖房器具のそば、車の中、日光のあたるところ、ほこりの多いところ、湿気の多いところを避けて保管すること。

保管条件：周囲温度　－10 ～ 50℃　相対湿度　30 ～ 95% RH
（ただし、結露なきこと）

［保管上の注意］

・日光や紫外線等の強い光があたる場所に保管したり、長時間放置しないこと。［外装の変色、劣化や故障の原因となる。］
・収納ケースに磁気テープ、磁気カード等を近づけないこと。［内蔵されている磁石の影響で磁気記録された内容が損なわれる原因となる。］
・必ず収納ケースに収めて保管すること。［収納ケースに収めて保管しないと電源が切れずに電池の寿命が短くなる。なお、本品は電池が交換できない構造である。］
・収納ケースラベルをはがさないこと。［内蔵されている磁石が外れ、電源が切れなくなることがある。］
・複数の収納ケースを重ねて保管しないこと。［電源が切れないことがある。］

［電池寿命について］

・予測検温にて、約 10,000 回使用することができる。
・体温計を廃棄する際は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）に従って適切に廃棄すること。

## 【保守・点検に係る事項】

［保守・点検上の注意］

・しばらく使用しなかったときは、使用前に必ず作動（電源が入ること、「電池電圧低下」マークが点灯していないこと等）を確認してから使用すること。
・本体と収納ケースを洗う際は、水で洗うこと。収納ケースに収める際、乾いた布等で水気を拭き取ること。
・消毒する場合は、消毒用アルコール綿で清拭すること。クレゾールは使用しないこと。［故障の原因となる。］
・シンナー等の有機溶剤、ポビドンヨードでは拭かないこと。［有機溶剤や使用可能な消毒液以外を使用した場合、本品の破損、変色や故障の原因となる。ポビドンヨードで拭くと色素が付着することがある。］
・消毒液等に長時間浸さないこと。消毒液等に浸す場合は、必要な時間だけ行うこと。［本品は防浸構造であるが、長時間の浸漬は故障の原因となる。消毒に必要な時間については消毒液の添付文書参照のこと。］
・ガス消毒器等による本品の滅菌、消毒はしないこと。［故障の原因となる。］
・ドライヤー等を使用して乾燥させないこと。［本品が破損や故障する可能性がある。］
・熱湯消毒（50℃以上）しないこと。［故障の原因となる。］
・超音波洗浄しないこと。［故障の原因となる。］

## 【包装】

・１個／箱

## 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売業者：テルモ株式会社
住　　所：東京都渋谷区幡ヶ谷２丁目 44 番１号
電 話 番 号：0120-12-8195　テルモ・コールセンター

製 造 業 者：テルモ株式会社

外国製造所の名称：泰尔茂医療産品（杭州）有限公司
Terumo Medical Products(Hangzhou)Co.,Ltd.
国　　名：中華人民共和国



Ⓣ、TERUMO、テルモはテルモ（株）の登録商標です。